

グローバルCOEプログラム「コンフリクトの人文国際研究教育拠点」

「コンフリクトの人文」セミナー 第15回

<報告1>

仏領植民地期アルジェリアの行政と
法をめぐるコンフリクト

大阪大学大学院人間科学研究科 GCOE 特任研究員

工藤晶人

<要旨>

アルジェリアは19世紀後半からフランス内務省の管轄下におかれ、本国の県という独特の行政上の位置づけを受けた植民地であった。また植民地化当初から大規模な入植と農業開拓が政策目標とされ、それにとまなう統治システム整備と土地制度改造が問題となった点にも特徴がある。このことは行政当局・入植者社会・先住民諸集団の間で多面的な軋轢をもたらした。本報告では19世紀のフランス人法学者・実務家による土地制度をめぐる法解釈・学説を主な素材として、フランス法の導入とイスラム法の包摂という両面からどのような模索が行われていたかを紹介し、植民地統治が内包した矛盾、抵触の一例を考察したい。

<報告2>

日常的コンフリクトとしてのセクシャリティ
—「善きカトリック教徒」の秘蹟体験を中心に—

大阪大学大学院人間科学研究科 GCOE 特任研究員

藤原久仁子

<要旨>

カトリックの聖職者は教義上独身であらねばならないが、一般の信徒は家族を形成し子を産み育ててゆくことが奨励される。聖職者と平信徒に対する教義のいわばダブル・スタンダードの狭間で悩むのが「善きカトリック教徒」と呼ばれる人々である。彼ら彼女たちはいかなるコンフリクトを抱え、それを解消あるいは解消しきれないまま「善きカトリック」であり続けているのか。本報告では、特に性的な葛藤とカトリックにおける告解制度及び聖体拝領という二つの秘蹟に焦点を当て、マルタでのフィールドワークで得た資料をもとに考察することにした。

日時：2008年7月3日（木） 17:00 から 19:00

会場：大阪大学大学院人間科学研究科（吹田キャンパス） 東105教室（参加無料）

東館は、万博外周道路側の別館です。大阪大学大学院人間科学研究科（吹田キャンパス）への交通アクセスは<http://www.hus.osaka-u.ac.jp>をご参照ください。

お問い合わせ先：

大阪大学大学院人間科学研究科人類学研究室

e-mail: globalra@hus.osaka-u.ac.jp

電話 06-6879-8085

06-6877-5111

【報告者略歴は裏面をご参照ください】



【報告者略歴】

工藤晶人

東京大学大学院人文社会系研究科単位取得退学。日本学術振興会特別研究員、放送大学非常勤講師を経て2008年4月より現職。専門は植民地期アルジェリアを中心とするフランス植民地史。植民地をめぐる政治思想、入植者の人口史、行政と法制度、都市の構造などのテーマについて研究を行なっている。近著に「19世紀アルジェリアにおける植民都市の形態と分節化」(『地中海学研究』31号、2008)、「アルジェリア所蔵の植民地期史料とそれをめぐる論争」(『現代史研究』52号、2006)など。

藤原久仁子

2001年、お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士課程修了、博士(人文科学)。専門は文化人類学。放送大学、法政大学、山梨学院大学の非常勤講師、日本学術振興会特別研究員(PD)、京都大学人文科学研究所機関研究員を経て2008年2月より現職。著書に『「聖女」信仰の成立と「語り」に関する人類学的研究』(すずさわ書店、2004年)、論文に「カトリック世界における『宗教復興』:聖体礼拝 *adorazzjoni* の今日的展開について」(『現代宗教 2005』東京堂出版、2005年)、「変奏される伝説、転置するフェティッシュ:ゴゾ島南西部にある歴史民俗博物館の井戸水をめぐって」(『フェティシズム:人とモノの関係を探究する』京都大学出版会近刊)などがある。